

まちづくりを視点とした近代化遺産の保存と活用に関する一考察 ～これまでの活用事例の分析と今後の方向性～

足利工業大学 学生会員○藺田 恩治
同 正会員 福島 二郎

1. はじめに

地域経済縮小時代と言われる現在、地域活性化を目的としたまちづくりが各地で行われている。その内、文化財のカテゴリーの一つとして、近年、近代化遺産が注目されている。この近代化遺産は、大きな資金に依存せずに取り組むことが可能なまちづくり手法として、全国的な広がりをみせている。その反面、文化財として保護されるものとは別に、その持つ価値を十分に認識されることなく消失してしまうものも多数存在する。近代化遺産は現在の文化の直接の基盤となるものであり、その保護は文化の継承と新たな創造にとって重要であると考えられる。また、保護・保存のためには活用していくことがその前提になる。そこで本研究では、この近代化遺産の活用に着目し、これまでの活用実態の把握とその分析を行うことをとおして、これからのまちづくりを視点とした活用手法の方向性について検討することを目的とする。

2. 全国における保存・活用に関する調査・分析

(1) 近代化遺産の数的把握

全国における近代化遺産の数的把握を行った。ここでは、文化庁が主導し各都道府県教育委員会が事業主体として実施した全国の近代化遺産総合調査（以下、「全国総合調査」）の成果を使用した。この「全国総合調査」は、その数的把握を主たる目的に 1990 年から始まり現在も行われている。現在、東京都を除くすべての道府県で調査が終了しており、データが入手できなかった奈良・宮崎県を除くその総数は 33,491 件である。近代化遺産は、1996 年の文化財保護法の改正により保護される道筋もできた。すなわち、「国宝及び重要文化財（建造物）指定基準」の改正、さらに「文化財登録制度」の創設により、土木関連施設や所謂近代の建造物が法により保護されることになった。現在、国指定重要文化財 76 件 257 棟（近代の産業・交通・土木施設。2016 年 5 月答申）、国登録有形文化財（建造物）8,568 件（明治・大正・昭和。2015 年 7 月答申）が指定および登録されている。表 1 に、全国の近代化遺産の道府県別・分類別一覧を示す。

(2) 活用実態の分析

全国を対象に、近代化遺産の活用実態を調査した。調査は、「全国近代化遺産活用連絡協議会」および全国の市町村が公開しているデータを基に、Google により検索した。その後、検索結果を活用目的別に分類し、『観光的活用』『教育的活用』『その他』にまとめた（図 1 参照）。

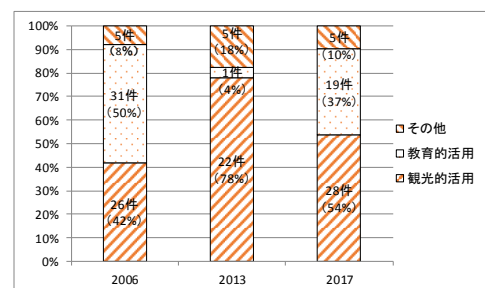
2006 年度 62 件、2017 年度 52 件、また、活用事例の経年変化を見るため 2013 年度の値も確認した。しかしながら、件数が少ないため参考として示すに

止めた。これらの活用実態から、『観光的活用』と『教育的活用』が 90%以上を占めており、また参考として掲げた 2013 年度も 80%を超えていることから、この 2 つの活用内容による取り組みが各地で一般的に行われていることがわかった。

また、『その他』としては、イベント会場（舞鶴赤れんがハーフマラソン/2017）、コンサート会場（第 14 回ひらつか音楽の贈り物/2017、ミニコンサートと絵画展/2006）等の活用があった。

表1 全国の近代化遺産の道府県別・分類別一覧

県/分類	産業	交通・通信	土木	軍事	教育・文化	その他	合計
北海道	173	22	32	14	3	71	315
青森	20	32	14	5	18	0	89
岩手	62	93	13	7	53	38	266
宮城	64	206	180	6	129	85	670
秋田	691	351	167	0	126	0	1335
山形	150	120	49	0	165	0	484
福島	114	171	168	4	74	128	659
茨城	192	166	74	49	123	12	616
栃木	150	71	34	14	162	2	433
群馬	351	376	97	16	143	0	983
埼玉	170	367	21	25	11	246	840
千葉	36	149	62	23	20	2	292
東京	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	66	279	307	268	324	151	1395
新潟	95	182	130	1	94	187	689
富山	116	65	66	0	48	5	300
石川	93	62	165	14	149	17	500
福井	13	175	28	2	91	40	349
山梨	64	32	54	4	168	91	413
長野	128	186	204	12	161	287	978
岐阜	46	193	202	1	47	40	529
静岡	50	184	98	45	80	80	537
愛知	35	38	80	15	32	39	239
三重	110	233	111	21	152	0	627
滋賀	229	396	74	4	388	536	1627
京都	32	287	24	76	90	349	858
大阪	128	502	59	37	167	394	1287
兵庫	325	431	331	43	715	17	1862
奈良	-	-	-	-	-	-	-
和歌山	84	134	25	12	43	43	341
鳥取	94	210	146	45	109	10	614
島根	169	223	83	16	138	54	683
岡山	263	547	311	29	393	0	1543
広島	189	276	237	52	181	0	935
山口	217	139	136	43	157	0	692
徳島	61	706	200	12	222	13	1214
香川	88	407	164	62	153	0	874
愛媛	361	230	98	80	233	21	1023
高知	70	175	69	13	70	724	1121
福岡	40	26	3	1	40	0	110
佐賀	155	184	84	13	192	72	700
長崎	71	134	34	62	194	16	511
熊本	130	678	256	19	132	0	1215
大分	127	352	164	31	170	14	858
宮崎	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島	89	467	103	47	126	27	859
沖縄	68	100	19	109	39	691	1026
合計	5979	10357	4976	1352	6325	4502	33491



注) 数値は件数、()内は構成率を示す。

図1 全国における活用実態の分析

キーワード：近代化遺産、活用分析、まちづくり

連絡先：〒326-8558 栃木県足利市大前町 268-1 足利工業大学 福島 二郎 tel.0284-22-5687 e-mail:fuku@ashitech.ac.jp

3. 栃木県の近代化遺産の実態把握と活用分析

(1) 数的把握
栃木県の近代化遺産調査は、文化庁の「全国総合調査」に際し、2001年度から2002年度に県教育委員会が主管して行われた。その結果、2003年3月に『栃木県の近代化遺産－栃木県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書』として上梓され、433件がリストアップされた。この内、国重文6、国登録51、県指定12、市町指定28の計97件が文化財として法により保護されており、反面、他の336件は保護対象外であり、すでに59件が消失していることがわかった(2013年3月現在)。

(2) 活用に関する分析
①とちぎエクスカッション
土木学会関東支部栃木会では、県が所管する土木事業の役割を広報する一手法として、土木遺産等の歴史的建造物を中心に、バスツアーによる視察研修会を行っている。この“とちぎエクスカッション”は、県民を対象に2011年度を除き2008年から現在まで毎年開催されている。表2に、視察施設と参加者の満足度を示す。確認できたデータ42施設の内、満足度50%以上は23施設(54.8%)であった。

表2 とちぎエクスカッションの視察施設とその満足度

(満足度: %)		
開催年度	エリア	視察施設・構造物等
2008	日光	神橋、明智平、中禅寺ダム、華嚴の滝、いろは坂、大谷川
2009		華嚴の滝(69)、男体山(砂防)(73)、大谷川(53)
2010	県北	神橋(42)、日光総合支所(81)、明智平(50)
2012		黒川発電所・膳棚水路橋(74)、余笹川(59)、晩翠橋(97)
2013	足尾	那須疏水旧取水施設(62)、那須疏水(50)、旧青木周蔵那須別邸(79)
2014		黒川発電所・膳棚水路橋、余笹川、晩翠橋
2015		那須疏水旧取水施設、那須疏水、旧青木周蔵那須別邸
2016		銅山観光(61)、古河掛水倶楽部(70)、第一松木川橋梁(15)、古河橋(46)
2017	県南 (足利・栃木)	足尾砂防ダム・足尾環境学習センター(76)、日光だいや川公園(26)
2018		第一松木川橋梁(37)、古河掛水倶楽部(70)、銅山観光(43)
2019	県南 (野木・栃木)	第二渡良瀬川橋梁(40)、稲荷川砂防施設群(50)
2020		所野第一発電所外山原取水施設(3)
2021	県南 (足利・栃木)	足利近代水道施設群(92)、中橋・渡良瀬橋(19)
2022		旧足利織物(92)、旧栃木町役場(31)、県庁堀(38)、巴波川(23)
2023	県南 (野木・栃木)	野木町煉瓦窯(87)、渡良瀬遊水地(55)、渡良瀬川橋梁(37)
2024		野木町煉瓦窯(83)、渡良瀬遊水地(59)、渡良瀬川橋梁(59)

注) 満足度のデータが入手できなかった年度は視察施設・構造物のみ記載。

②足利市近代化遺産バスツアー
足利市観光協会が事業主体となり、市内の近代化遺産の啓発を主たる目的として2014年度から開催している。視察施設と満足度を表3に示す。近代化遺産19施設の内、満足度50%以上は6施設(31.6%)であった。

表3 足利市バスツアーの視察施設とその満足度

(満足度: %)		
開催年度	エリア	視察施設・構造物等
2014	足利市内	旧足利織物株式会社(84)、旧足利模範糖系工場(24)、中橋(21)
2015		渡良瀬橋(29)、旧木村輸出織物工場(47)、旧須花隧道(79)
2016		緑町配水場(77)、今福浄水場(44)、中橋(8)、渡良瀬橋(16)
2017		旧足利織物株式会社(46)、旧足利模範糖系工場(66)
2018	中橋(11)、渡良瀬橋(11)、旧足利織物株式会社(86)	旧木村輸出織物工場(11)
2019		緑町配水場(64)、足利公園(39)、運送館(25)

③那須烏山市近代化遺産バスツアー
那須烏山市まちづくり研究会(事務局:市商工観光課。2015年度からはまちづくり課)が主催するバスツアーで、市内の近代化遺産を中心に近隣自治体の遺産を視察している。また最後に訪れる遺産を利用してコンサートを開催している。視察施設と満足度を表4に示す。確認できたデータ7施設の内、満足度50%以上は5施設(71.4%)であった。

表4 那須烏山市バスツアーの視察施設とその満足度

(満足度: %)		
開催年度	エリア	視察施設・構造物等
2013	県央・県東	宇都宮市水道施設群、境橋、東京動力機械製造(株)地下工場跡
2014		那須疏水、晩翠橋、境橋、東京動力機械製造(株)地下工場跡
2015		旧栗野中校舎(54)、境橋(62)
2016		烏山防空監視塔(33)、東京動力機械製造(株)地下工場跡(49)
2017	宇都宮市水道施設群今市浄水場(71)、境橋(71)	宇都宮市水道施設群今市浄水場(71)、境橋(71)
2018		東京動力機械製造(株)地下工場跡(61)

注) 満足度のデータが入手できなかった年度は視察施設・構造物のみ記載。

④各ツアーのアンケート(自由意見)の分析
上記3つのツアーに対するアンケート調査の内、自由意見として記載された328件について、【説明・解説内容】【見学施設】【企画・運営内容】【感想のみ】の4項目に大別し、各々について『満足』か『不満』かで集計した。図2に、その分析結果を示す。各ツアーおよび年度においてバラツキはあるが、全体集計では概ね満足度は高い値を示している(79%)。一方、不満回答(21%)では『企画・運営』がその大半を占めている(68%)。

4. まとめ

本研究の成果は、以下のとおりである。
①近代化遺産の活用は、ほとんどが観光と教育に関するものであり、それは全国的な傾向として定着している。
②観光に活用された施設個々の評価では、意匠性や物語性の高い建造物は、建築・土木に関わらず満足度が高い。
③近代化遺産活用によるツアーは高い評価を得ているが、企画・運営手法に課題があることがわかった。
身近な地域資源の活用は、財政基盤が脆弱な地方都市のまちづくりにとって有効な取り組みと言える。現在の直接の基盤となる近代化遺産は、新たな地域アイデンティティとしてこれからのまちづくりにとって有効な資源と成り得る。手に触れることができる身近な存在である近代化遺産の特性を最大限生かした活用手法の構築が、その活用の幅を広げ、それが近代化遺産のさらなる保護に結びつくものと考ええる。

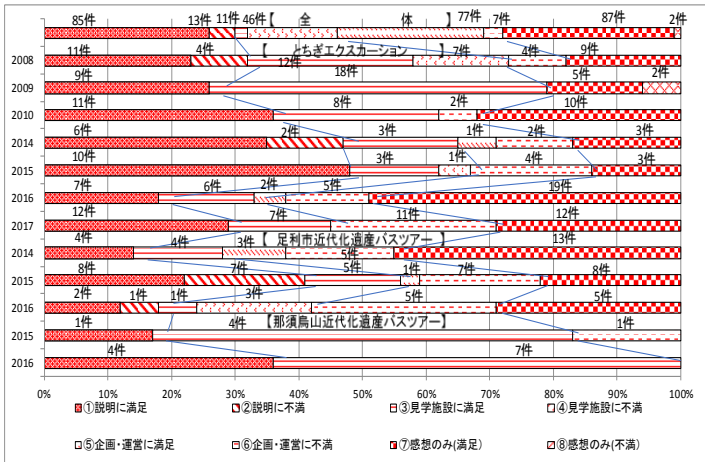


図2 各アンケートの分析